（昭和63年4月2日第3種郵便物認可）

三重タイムズ

発行所 三重タイムズ社
本 社 津市丸之内18-15
TEL059-223-1230 FAX059-223-1222
http://www.mietimes.co.jp/
©三重タイムズ社

津市と藤田医科大学が包括連携協定

医療・福祉・介護＋健康福祉、生活安全、教育文化、まちづくり

大学が地域課題解決へ積極関与

安心して暮らせる地域づくり

津市は藤田医科大学（愛知県豊明市）と16日（金）、地域課題の解決に向けた包括連携協定を締結した。高齢社会に移行しつつある津市の諸問題に対応するため、医療、介護、福祉の分野に加え、健康福祉、生活安全、教育文化、まちづくりの点においても連携して取り組みを進める。

同大学との連携協定は、津市大島町に藤田学園保健衛生大学七栗サナトリウムが開設された1987年に始まる。

サナトリウムは1998年、院内に在宅介護支援センターを開設し、介護・福祉分野へ進出。2016年に七栗記念病院と改称した。

藤田医科大学と津市との
包括連携協定締結式
津市

【写真右から、園田茂七栗記念病院病院長、金田嘉清副学長、湯澤由紀夫学長、前葉泰幸市長、副市長】

同病院は、優れたリハビリテーションと緩和ケア、栄養療法に定評があり、「生きる力を支える医療」を目指している。

令和2年4月から津中央地域包括支援センター（津市大門）における相談業務を担っている。相談業務は介護予防に関する相談、虐待や金銭トラブルでの権利擁護に関する相談、地域にあるさまざまな機関との連携など。

人材育成にも力を入れており、津市の地域包括ケア推進室の職員も受講。こうした平素の関係を下地とし、今回締結により、領域を広げて連携を強化する。

この日、津市役所本庁舎で調印式が行われた。前葉泰幸市長、湯澤由紀夫学長、金田嘉清副学長、園田茂七栗記念病院病院長らが出席した。

前葉市長は「津市民の健康のためには『まちかど保健室』の設置を望みたい。市民が安心して暮らすには医療・福祉・介護が一体化した地域であることが理想」とし、大学側は津市の地域問題に対し、積極的に関与していく意向を示した。

湯澤学長は「創設者・藤田啓介が掲げる基礎研究を大切にする伝統、同大学の精神的支柱は七栗記念病院にある。厚労省が医学系大学に対して求める地域医療へのコミットメントを受け、医学教育の場として機能させることも重要な役割」と語り、「基礎研究に基づいて独自の医療を創り出し、世に提供していくことが私どもの使命。三重での成果を良いモデルにしたい」と述べた。

新築/リフォーム
店舗設計/エクステリア
ガーデニング
APOA
Airy Personal Organic Artistic
http://apoa.jp
0120-790-834

秋・冬の新作紹介
愛あむニットセミナー

やまと屋
愛あむニットセミナー

津市本町のやまと毛糸店（中川浩雄代表）は17日（土）、ダイヤ毛糸（株）専属講師の森岡恵美さんを講師に迎え、津市羽所町のアスト津4階で、編み物講師とその助手を対象とした「愛あむニットセミナー」を開いた。津市近辺の編み物教室や公民館などで、手編みを教える25人が参加し、熱心にメモを取り、実際に編んで技法を習得していた。

森岡さんが「毛糸は今年はグレーベースの色味に、ピンクやブルーのアクセントの入る色合いが人気です」と今年の秋冬に向けた流行のデザイン、素材、カラー傾向、技法などを説明した。

会場にはセーター、カーディガン、ベストなど、今期の新しいデザインを編んでマネキンに着せて展示。休憩時間には手本を手に取って見、編み方について確認しあっていた。

物忘れは誰もがなる

人生をいかに楽しむかが治療につながる

こころの県民公開講座「くすりだけじゃない認知症ケア」

令和3年度こころの県民公開講座「くすりだけじゃない認知症ケア」～多職種からのアプローチ～が10日（土）、津市一身田大古曽の三重県人権センター多目的ホールで開催され、事前に申し込んだ43人が聴講した。

県立こころの医療センター院長森川将行さん、看護師伊藤彩子さん、管理栄養士川上恵理さん、作業療法士中川香名さんの4人が、専門職の立場で日常でできる薬以外のアプローチの方法を話した。

最初に森川院長が、「認知症の根本的な治療薬は、日本ではまだ無い。適切なケアをすることで薬には頼らなくても進行を遅らせることができる」と話し、物忘れのパターンなどの説明をした。

日々想々

古民家で雑感
～土間と応接間とコミンピング～

鈴木 茂基

築66年の古民家がある。「古民家」と言うと何か価値がありそうだが、「古い住宅」と言えばほとんどないようにも思える。

でも、まだ空き家になって半年余り、きれい好きな家主だったので、保存状態はいい方だ。

さて、どんな活用をしようか…、悩みでもあるが、いろいろ考えているときがおもしろい。

玄関を入ると6畳ほどの土間がある。

かつて、何度も「行ってきまぁーす」「ただいまぁー」と叫んだところである。

家族は、毎日ここで、祈りと感謝を繰り返してきた。

朝、「行ってらっしゃい（気を付けて）」と祈る気持ちで送り出し、夜、「お帰りなさい（無事でよかった）」と感謝する。

そういえば、時代劇とかで、火打石でカチッカチッと切り火を散らすシーンを見たことがある。出かける前の安全祈願と、帰宅時に外の厄を家に持ち込まないために、玄関で行われた習慣であったそうだが、今なら、ウイルスを家に持ち込まないための「おまじない」にしてもいいかもしれない。

冗談はさておき、この玄関土間、近年はその利便性が見直され、新築やリノベーションの際に土間を取り入れる人が増えていると聞く。手洗い場や土足のまま入れるクローゼットを設けたりと、アフターコロナの新しい住宅仕様のようだ。

と言っても改修に費用はかけられない。せめて、一昔前のように、上がり框（かまち）に腰をかけて世間話ができる空間は残しておきたい。

庭を挟んだ離れに18畳ほどの大きな応接間がある。

40年余前、来客を迎え入れるために主人が設けた自慢の洋間で、応接セット、造り付けのサイドボード、シャンデリアはもちろん、家具調のステレオとテレビ、舶来品のウィスキーとグラス、テーブルの上には白いレースの布にクリスタルの灰皿、ゴルフでもらったトロフィーも、当時のものがそのまま残っている。これぞ昭和の「ザ・応接間」と言っていい。

今は来客を迎え入れるということがなくなってしまったので、至極のプライベート空間だが、いつかの来客時に、土間ではなく、ソファに腰かけてコーヒーでもどうぞ…と招き入れたい、レトロ感満載の空間である。

私の実家もよく似ているという人、多いのではないか？

最近覚えた新しい言葉で「コミンピング」というのがある。

古民家とキャンプ（キャンピング）を組み合わせた造語で、古民家で田舎暮らしを体験しながらキャンプ気分を楽しむというものらしいが、田舎の祖父母の家に行って、お庭でバーベキューを楽しむといった感じか…。

さて、今年のお盆の帰省はどうするのか？

民間調査機関の「2021年夏の帰省に関する意識調査」によると、帰省先がある人の約8割が帰省をやめるか悩んでいるという。

それなら、近場で楽しめる「…ピング」を考えるとするか。

でも、ベランピング（ベランダでキャンピング）とは少し寂しい気がする。

（コクド鑑定・調査㈱代表取締役社長・不動産鑑定士・ヘリテージマネージャー）

三重タイムズは中日新聞販売店から金曜日配布
【配布地域】津市（旧・久居市・安芸郡・一志郡・松阪市嬉野・三雲町）

津平和のた
久居農林放送
「静かなる語り部」「

第33回津平和のための戦争展～日常・自由・いのち～が31日（土）と8月1日（日）午前9時30分～午後4時30分、津リージョンプラザ（津市西丸之内23―1、津市役所西隣）展示室とお城ホールで開催される。入場無料。

主な展示は次の通り。

〈展示室〉

▼「うばわれたいのち」＝竹内浩三と詩「骨のう